

## 平成26年度 第1回広報・広聴委員会会議報告

日時 平成26年5月13日（火）13時30分～16時

場所 寒川総合図書館 会議室

出席者 新藤委員長、相京副委員長、櫛原、伊藤、  
吉原委員、高木（事務局）

（欠席） 五島委員

○開会あいさつ （新藤委員長）

○自己紹介

○委員会規則について

- ・会則における委員会設置の根拠、委員会運営要領などについて説明した。

○報告・協議

（1）報告

a 会誌『記録と史料』第24号について

- ・事務局より、年度内に刊行できたことの謝辞を述べた。
- ・表紙などの外見では、『記録と史料』が全史料協の会誌である旨がわからないという問題提起が以前の委員会ではなされたが、表紙のデザインを一新することまではできなかったため、今回初の試みとして、目次と奥付に「会誌」の文字を入れてみた。表紙のデザイン変更については、今後の課題とする。
- ・「重要文化財になった東京大学史資料」の記事で2か所、校正ミスがあったことを著者から指摘された。会報の誤りと併せて正誤表を作成し、会員宛には東日本大震災臨時委員会の活動記録集の発送時に、同封してもらう旨を報告した。委員から「秋田県公文書館20周年記念事業について」にも誤植があると指摘があり、これも正誤表に追加することとなった。
- ・4月19・20日に開催された日本アーカイブズ学会の大会で12冊を販売した。
- ・書評のうち『企業アーカイブズの理論と実践』を企業史料協のサイトに全文転載したいとの依頼があった。著作権は著者が保持しているが、慣例で1年は転載を控えていただいていると説明。企業史料協には、要旨のみを載せるという対応をしていただいた。

b 会報第95号について

- ・事務局より印刷、発送事務などの状況を説明した。
- ・板橋区公文書館の見学記に一部誤りがあると同館より指摘があったため、臨時委員会活動記録集に同封する会誌の正誤表に載せることになった。

c 平成25年度第2回役員会について

- ・2月21日、広島県立文書館で開催された平成25年度第2回役員会の概要について、当日配布された次第をもとに事務局より説明した。
- ・特に、本年11月に福岡市で開かれる全国大会の概要、来期の役員体制の進捗状況、

組織検討ワーキンググループの経過報告などの要点について説明した。

**d 平成26年度全史料協の組織体制について**

- ・平成26年度の役員名簿にもとづき説明。人事異動により、理事のうち4人が入れ替わると報告した。

**(2) 協議**

**a 平成25年度事業結果報告・決算報告について**

- ・会長事務局に報告済みで、6月20日の役員会で承認を受ける予定である。
- ・刊行物売り上げは、80冊、10万円の予算のところ119冊、162,350円の決算額となった。これは複数の大学でバックナンバーの一括購入があったためである。
- ・当初予算からの変更点は、発送用の封筒の印刷である。この財源として、委託料のうちテープ起こしの委託、および英訳謝礼の報償費の不用分を流用した。

**b 平成26年度事業計画について**

- ・会議の2回目は、藤沢市文書館で開催することになった。8月1日～8月8日の間で早めに調整して決定する。
- ・会議の3回目は、福岡大会の開催中に実施することになった。大会のスケジュールに照らして、時間と場所を考えることとする。
- ・会報97号と会誌25号は、事務局引継ぎのことも考えて、刷り上がりを年度末ではなく、3月上旬を目標にする。

**c 平成26年度予算について**

- ・25年度とほぼ同額だが、消費税分を増やしたり、通信運搬費を決算額に近づけたりなど、費目によって若干の増減がある。
- ・事務局移転にともなう荷物の輸送賃が計上されていないとの指摘があった。刊行物の在庫が50数箱あるはずなので、実際に移転先が決まったら、予備費を検討するなど対応が必要である。

**d 会報第96号・97号の編集**

<96号>

- ・94号にならい12頁で構成する。
- ・次のようなスケジュールで進行する。

構成決定：6月中旬、原稿依頼：6月下旬、原稿締切：8月上旬、

発行：9月末日

- ・6月に盛岡で開催される公文書館機能普及セミナーの参加記のほか、組織検討ワーキンググループの動向、東日本大震災臨時委員会の活動総括など、他委員会等と相談しながら分量を決めていくことにする。
- ・編集後記の執筆は櫛原委員とする。

<97号>

- ・内容は福岡大会の特集号とする。
- ・次のようなスケジュールで進行する。  
構成決定：10月中旬、原稿依頼：10月下旬、原稿締切：12月下旬、  
完成：3月上旬、奥付：3月末日
- ・原稿依頼は、大会研修委員会と連携をとりながら最適なタイミングで行うこと。

#### ● 会誌『記録と史料』第25号の編集

- ・特集は、今年の第2候補だった「アーカイブズの情報発信」とする。執筆にあたっては、利用者の視点に立ってシステムが有効に動いているかという視点を共通の切り口にしてもらおうよう依頼する。
- ・論考は、従来どおり投稿を待つことを基本とするが、国立公文書館のアーカイブズ研修や、国文学研究資料館のアーカイブズカレッジの修了論文を改稿してもらおうよう、こちらから依頼することも必要である。国立公文書館の場合、秋口に前年度の論文集が刊行されるので、それを見ながら執筆者と個別に交渉すること。
- ・「世界の窓」は24号で検討していたフィリピンの津波による被災資料レスキューについて、伊藤委員が引き続き情報収集を行うことになった。
- ・「アーカイブズネットワーク」は、今年度中に開館する新館のレポートを中心に執筆依頼する。他に情報があれば随時検討する。
- ・「書評と紹介」は、事務局案を検討したが、他にもあれば候補を挙げ、執筆者も含めて次回会議で検討する。
- ・「資料ふぁいる」の候補として、調査・研究委員会が事業計画に載せている「公文書館機能整備のための手引き」を検討する。同委員会とよく相談すること。
- ・「資料ふぁいる」のもう一つの候補として、『記録と史料』総目次を載せる案も出たが、分量が多くなることも考え、慎重に検討すること。
- ・「会員刊行物情報」の回答率が芳しくない。全ての機関会員に回答してもらえよう、投稿フォーマットの工夫や、メールでの投稿呼びかけなどの対応が必要である。
- ・以上を踏まえ、次回の会議では執筆者候補を絞り込むなど、具体案を持ち寄り検討する。
- ・将来的に表紙デザインの変更を検討すること。平成27年度予算にデザイナーに試作してもらえよう予算を獲得してはどうか。
- ・頒布価格の改訂も検討すること。26号から値上げができるようにするためには、26年度第2回役員会で諮ってもらわなければならない。その際、日本アーカイブズ学会の『アーカイブズ学研究』が2,000円としている根拠などを調べておくこと。

#### ○その他

##### a 次回開催場所と日時

- ・藤沢市文書館で開催することになった。8月1日から8日の間で各委員の都合をスケジュール調整サービス「伝助」を使って調整する。